



高校生の人権広報誌

“Freedom” 創刊号

2009年10月16日発行

編集 “Freedom” 編集スタッフ

発行 奈良県高等学校人権教育研究会



高校生がつくる人権広報誌 “Freedom” (フリーダム) 創刊!

県内各校の生徒が「編集スタッフ」に参加!

スタッフ会議を開催、広報誌の名前とシンボルイメージを決定

高人教(奈良県高等学校人権教育研究会)では、今年度、県内すべての高校生に向けて、高校生自身が人権に関するいろいろな情報を発信していく広報誌を創刊するため、企画・編集に参加してくれる高校生を募集してきました。この呼びかけに応じて、六校十三名(協力スタッフを含む)のメンバーが集まってくれました。創刊号発行のために、これまでに二回「編集スタッフ会議」を開き、活発に話し合ってきました。

広報誌の名前については、一学期末から夏休みにかけて、各校から多数の応募をいただきました(感謝!)。みんなのいろんな思いがこもった応募作の中から、スタッフ一同が悩んだ末に決定したのが、大宇陀高校の吉岡くん、奈良高校の元根くんより応募のあった、「Freedom」でした。私たちには、この社会を共に生きるものとして、お互いを傷つけあうことなく、それぞれの「自由と平等」を守り育てていく責任があります。



イヌサフラン(Wikipediaより引用)

Freedom という言葉はシンプルですが、一人ひとりが、偏見や差別意識にとらわれず、人権の確立した社会をめざそうという力強いメッセージが込められているように思います。また、ユニークな名前として高田商業高校の杉内さんから「イヌサフラン 悔いなき青春」という応募作がありました。「悔いなき青春」はイヌサフランの花言葉であり、誰一人人権を無視されることのない高校生活をイメージしたということで、この花を広報誌のシンボルイメージにしてはどうか?との提案がありました。スタッフ一同の賛成で決定しました。

いかがでしょうか?そして、できれば誰かこの花で広報誌のシンボルマークを作ってもらえないでしょうか?・・・ということで、「応募お待ちしています。各校の人権教育部など担当の先生を通じてお願いします。さて、誕生したばかりのこのFreedomですが、創刊号は、編集スタッフ自身が取材したり、各校の解放研や人権サークルが活動した内容を中心に誌面をつくりました。今後は、読者のみなさんからの、人権についての情報や意見なども掲載していきたいと思っています。よろしく願います!

高解研 研修交流会

参加体験記

私は、今年四月に大宇陀高校のヒューライツクラブに入部しました。

ヒューライツクラブというのは、広く人権(人として生きる権利)に関する問題を考えていこうという目的のクラブで、人権にゆかりのある名所や施設を訪れたり、県内の解放研等のクラブに所属する高校生と交流して、人権について深く学習していきます。何か難しそうですが、一年生の時には部活動はしていなかったのと、顧問の先生の薦めもあり入部してみました。今回、六月二十一日(日)に桜井市の中央公民館であった「高解研研修交流会」に参加して感じたこと・様子を報告します。

午前中は、インターネットと人権」というテーマで映画「夕映えのみち」を視聴。昼食時は小グループに分かれ、中華料理の「包子 パオズ」(肉まん)をつくり、試食しながらの交流。調理実習のよな形で始まったのですが、



他校の生徒といっしょであったので少し緊張しました。午後は、視聴した映画についての感想や意見の発表、インターネットや携帯電話での書き込みについての責任について話し合いました。

私は高解研に参加して、人権のことについて本当に色々なことを学べてよかったです。その中でも、一番に残っていることは、研修でインターネットと人権に関わるビデオを見たことです。悪口をネット上に書き込んだ女の子の気持ちも分かるし、書き込まれた方の気持ちもだつて分かるからです。書き込みをされた女の子はクラス中から仲間外れにされたり孤独感を味わわれていると思いました。何気なく自分が言った言葉や書き込みでも相手に知れたらその子はすごく傷つくし追い込まれると思います。私も人と喋る時、インターネットや携帯電話での書き込みについては十分気を付けようと思えました。あまり深く考えず参加した研修会でしたが、大変有意義な一日になりました。今後も積極的に参加しようと思っています。

「高解研」は奈良県高等学校解放研等連絡会議の略称です。

第二十四回 わたぼうし音楽祭に参加して

夏休み中の八月二日、奈良県文化会館大ホールで、毎年恒例の「わたぼうし音楽祭」が開催されました。読者のみなさんの中で参加された人もおられると思います。今回、Freedom スタッフの高田商業高校生三名が初めて参加し、レポートや感想を寄せてくれました。



わたぼうしコンサート

八月二日に第三十四回わたぼうし音楽祭が開催されました。この音楽祭で私が感銘を受けたのは、辛い思いをしても立ち上がって歩いていく姿勢です。貞弘治美さんの「解放」という歌詞では交通事故にあつて突然障がいと付き合っていくことになった体験が綴られており、誰でも障がいを抱える可能性があると感じました。大切なのはその時に自分がどれだけ自分自身と向き合えるかなのだと思います。きつと他人には計り知れない苦悩や葛藤があつて、それに負けずに進んでいくことはとても大変だと思います。

しかし、今回発表された曲は自身自身を受け入れ、前に進むこととする希望がたくさんありました。鈴木信夫さんの「月下美人が咲く夜は」では、ここにいられることを大切にしてみたいという歌詞があり、ここにいられることへの感謝、そして坂田一樹さんの「あなたがいてくれてありがとう」とは、まわりの人たちがへの感謝など普段は忘れてしまいがち

な思いが改めて心に響きました。また、菅沼佳美さんの「私の人生だから」で学んだことは自分では親切のつもりで取った行動でも気がかぬうちにその人の挑戦への妨げにもなっているということでした。危ないから出来ないからと決めつけて、一歩踏みだそうとしている人を踏みとどまらせてしまうことは、残念なことです。気を遣つてその人の行動の幅を決めつける前に、まず、その人の意志を尊重し、一緒に考えて行くことが大切だと実感しました。



わたぼうし音楽祭について

先日行かせていただいた「わたぼうし音楽祭」には私は大きな感銘を受けました。皆さん、とても辛い状況にあつても、毎日、強く明るく楽しい生活をされている様に見えました。何らかの障がいのある十人の人たちの歌詞にはさまざまな思いが表現されていて、仲間間の大切さ、そして生きることへの力強い気持ち

といったものは、どの方の歌詞を見ても、伝わってきました。わたぼうし大賞が決められていましたが、どの歌が一番かなど選ぶようがないくらい、どの方も心に染みる歌詞を書いておられました。本当に良い体験ができました。



わたぼうし音楽祭

私たちは三十分前に会場入りしたのですが、その頃には、もう人がいっぱいでした。これだけの人達にわたぼうし音楽祭は支えられているんだなあと思いました。演奏が始まると、歌う人が作詞をした人ではなくて、歌う人が作詞をした人ではな

くてびつくりしました。私は作詞をした人が歌えるなら歌って欲しかったなあと思いましたが、大賞を決めるアンケートでは、どれも素晴らしい、なかなか選ぶことが出来ませんでした。自分のこと、友達のこと、将来の夢のこと、どれも書いた人の個性や訴えたいことが伝わってきました。そして、どれも明るく、希望

コラム 疑問に思うこと



「人を傷つけてはいけません」これは、人として守るべき最も大切なことですが、みんなが小さい頃、親や先生から言われたことだと思います。しかし、それでも世界中で差別はまだたくさんあります。子どもにそれを教えなければならぬ大人が、人を差別しています。私はそれがとても疑問です。確かに自分を守る為に《仲間外れ》を見つけて、その人を疎外する事で、自分を守るかもしれません。自分自身に自信がなければ、それは自分が弱いからだと思えます。自分に自信がないから他人を差別するのだと思えます。だから、私は差別をなくすのに一番大切なことは、しっかりと、自分に自信を持てるような個人を育てる教育だと思えます。まず、自分を愛し、そして人を愛し、世界中から差別がなくなり、平和になればいいのになあと思います。

に満ち溢れているような気がしました。そして、私が一番気に入ったところは、なんといってもフィナーレです。司会者、作詞者、作曲者、家族、観客が同じ舞台上に上がって、「わたぼうし音楽祭」のエンディング曲「わたぼうし」を歌ったときは本当に感動しました。とても、素敵なコンサートでした。

編集後記

Freedom 創刊号をお送りします。編集スタッフとして集まってくれたメンバー（大宇陀高・添上高・高田商業高・帝塚山高・山辺高）は、夏の暑さにもめげず取材に執筆に奮闘してくれました。スタッフ会議では突っ込んだ議論もあり、とても充実した内容になったと思います。

Freedom の題字も、スタッフの力が集まりましたので、毎号変えてみることにしました。題字の投稿も大歓迎です。よろしくお願ひします。創刊号は、第二号も連続で発行します。ご期待ください。

読者の皆様からの人権に関わる原稿やイラスト等を募集しています。また本誌へのご意見もお寄せください。各校の人権教育担当の先生または左記の連絡先までお願いいたします。

高校生の人権広報誌

“Freedom”創刊号(2009年10月16日発行)

編集 “Freedom”編集スタッフ

発行 奈良県高等学校人権教育研究会

〒630-8133 奈良市大安寺 1-23-1

奈良県解放センター内

TEL 0742(62)5555 FAX 0742(62)5568

E-mail kodokyo@kcn.ne.jp

今回の“Freedom”題字は、高田商業高校スタッフでした。

本誌の発行は、奈良県教育委員会の事業委託を受けています。